

コンチネンタルタイヤ タイ新工場



タイ竹中 作業所長

野呂田 陵介

Ryousuke Norota

タイ王国の背景

二〇一九年三月に国民総選挙、五月にはラマ一〇世新国王の戴冠式が催されるなど、タイ王国は様々な変革期に差し掛かっている。経済に関して、タイ政府は中所得国の罫から抜け出し、先進国化するための施策として、高度産業化を指向したビジョン「タイランド4.0」を推進し、新たな経済成長を促している。このビジョンを実現するための中心的なプロジェクトとして、東部経済回廊開発があり、バンコク東部三県を高度産業集積地として開発する計画を進めている。

プロジェクト概要

当プロジェクトは、世界でのタイヤ生産シェア四位を占めるドイツのコンチネンタル社が総額二・五億ユーロ（約三三〇億円）を投資し、東部経済回廊の地域に位置するタイ南部ラヨン地区（バンコクから車で二時間程度）に新たな自動車用タイヤ工場を建設したものである。約七五万平方メートルの広大な敷地に、全長九一二メートルの製造ラインと倉庫を備えた工場を建設した。

同社は、東南アジア地域を今後のタイヤ販売戦略の重要拠点と定め、タイで初となるタイヤ工場の建設を決めた。二〇一九年の操業開始後



外観

グローバル企業の期待に応え信頼を獲得する

は年間四〇〇万本（将来的には二、五〇〇万本）の乗用車・トラック用タイヤ生産を予定し、競争の激しいタイヤ業界において、アジア市場での更なるシェア拡大を目指している。当社は、タイにおける四〇年以上にわたる工場の施工実績と、高い技術力に基づく提案が評価され、今回の工場建設を受注し、今年一月初旬に無事竣工引渡しをした。

当プロジェクトは入札工程と着工が遅れたが、生産設備発注は進捗していたため、建築主から

は生産機械の設置と設備供給の日程は遅らせたくないとのご要望があった。当社は設備マイルストーンを実現するために建築・設備の優先順位が調整された多工期同時施工計画の最適化案の立案や、屋根鉄骨構造設計や基礎躯体図作成の先行着手に取り組んだ。実際に着工後五・五カ

月で生産機械設置の実現やマイルストーンに沿ったユーティリティ供給を達成することが出来た。建築主のこだわりである土間スラブは、鋼製繊維コンクリートや特殊な鋼製目地を国外から輸入し、その目地位置に対して生産機械やフォークリフト動線との干渉の調整を行った。また、床平滑度の確保とダークグレー色のコンクリー

ト表面強化剤による色ムラを最小限にするために専用機械を採用し、建築主の期待した施工品質と工程厳守に応えることが出来た。

生産機器と建築・設備工事が輻輳する状況下の安全面では特に、墜落や感電事故防止の取組みを徹底し、最大一、五〇〇人が出入りするプロジェクトでありながら、三七〇万作業時間を無事、無事故・無災害で竣工させることが出来た。

終わりに

入札段階から竣工まで約二年半、タイ竹中のメンバーが一丸となって走り抜けた感慨深いプロジェクトになった。特に、コンチネンタル社は当社にとって初めての顧客であり、かつ顧客直営の生産機械設置会社を含め関連ステークホルダーがすべて多国籍（欧州、アジア各国）であったため、ITツールを活用し、工程の管理や建築主への説明・承認に役立てた。特に安全・品質・工期について建築主の要望に応えるために、メンバーが知恵を出し合いながら様々な工夫を実施したことは大変大きな自信となった。建築主の東南アジアでの事業の成功を切に祈るとともに、今後もグローバルな顧客の事業支援のために技術力とチームワークを磨いていきたい。

世界で活躍する
日本の建設企業



地鎮祭



セレモニー時の表彰

鳥瞰

